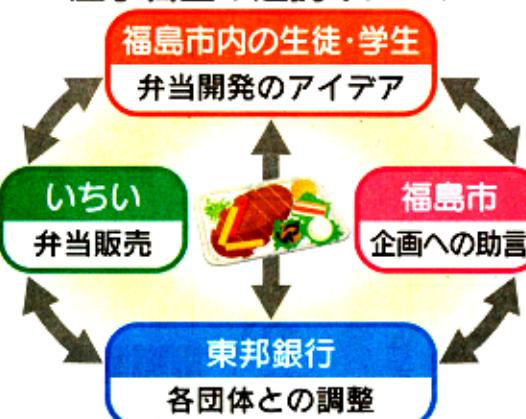


# 福島わらじまつり 食でアピール

# 「福かつ弁当」召し上がり

## 大わらじ福かつ弁当 産学官金の連携イメージ



4日にエスパル福島内で販売が始まった「大わらじ福かつ弁当」

# 五輪で無料配布へ

福島市の夏の風物詩「福島わらじま（り）」の大わらじを題材にし、金融機関、市による産学官金の連携事業。県産食材や郷土料理をふんだんに用いており、豊かな食を全国にアピールする。東日本大震災、東京電力福島第一原発事故後の支援への感謝の気持ちを込め来年、福島市で開催される東京五輪野球・ソフトボール会場で無料配布する考え。

産学官金の連携イメージは【図】の通り。福島市内の中高校生や福島大、福島学院大の学生ら若者有志約三十人が弁当のアイデアを出し合った。東邦銀行がスーパーのいちい、市などをつないだ。試作を重ね、約一年かけ

て完成させた。

県産エゴマ豚を使つた長さ約十五㌢、重さ約二百㌘とボリュームたっぷりのどんかつ

に、市内の内池醸造の特製ソースを絡めて焼きたまごを添えてくる。

の郷土料理の「ひき芋炒り」、県北産の桃を用いた白玉団子、【み】。県外から訪れる人に売り込みを図るために四日、JR福島駅ビル・エスパル

島内でもいちいち選育をするプラスワンキッズの「子ども」内閣府主催の「地方創生☆政策アイデアコンテスト」で日本一に輝いた七島海希さん(13)らによる「ふくしまにぎわいラボ」が、昨年五月に開かれた

立てる見渡しに活用できないか探っている。

△方が実現される仕組みを、福島モデルとして全国に広げたい」と話している。

木幡浩市長、佐々木高敏J.R福島駅長、三浦浩喜福島大学長、佐藤稔東邦銀行頭取らが試食し、さらなる連携を誓った。

## 産学官金が連携

エスパル福島で販売開始

ンで販売を始めた。以  
後、福島市内のいち  
店舗や県観光物産館  
の取り扱いを予定して

弁当を配り、福島の謝を伝える方針。弁代として三百万円が必要になるため、中高

中、若者が地元企業の魅力を知り、県内に残つてもらおうとする役割も担つてゐる。

会が開かれた。約四十人が出席し、七島さんと福島市を創る高校生ネットワークの八巻